

台風や 集中豪雨によって おこる災害

洪水による被害

大雨などによって、河川の水位や流量が普段より著しく増大することを洪水といいます。洪水には、大雨などによって、河川の流量が増加して発生する外水氾濫と、降水をスムーズに排出できずに発生する内水氾濫の2種類があり、どちらも家屋等に大きな被害を及ぼします。



平成12年東海豪雨災害(四日市市内)

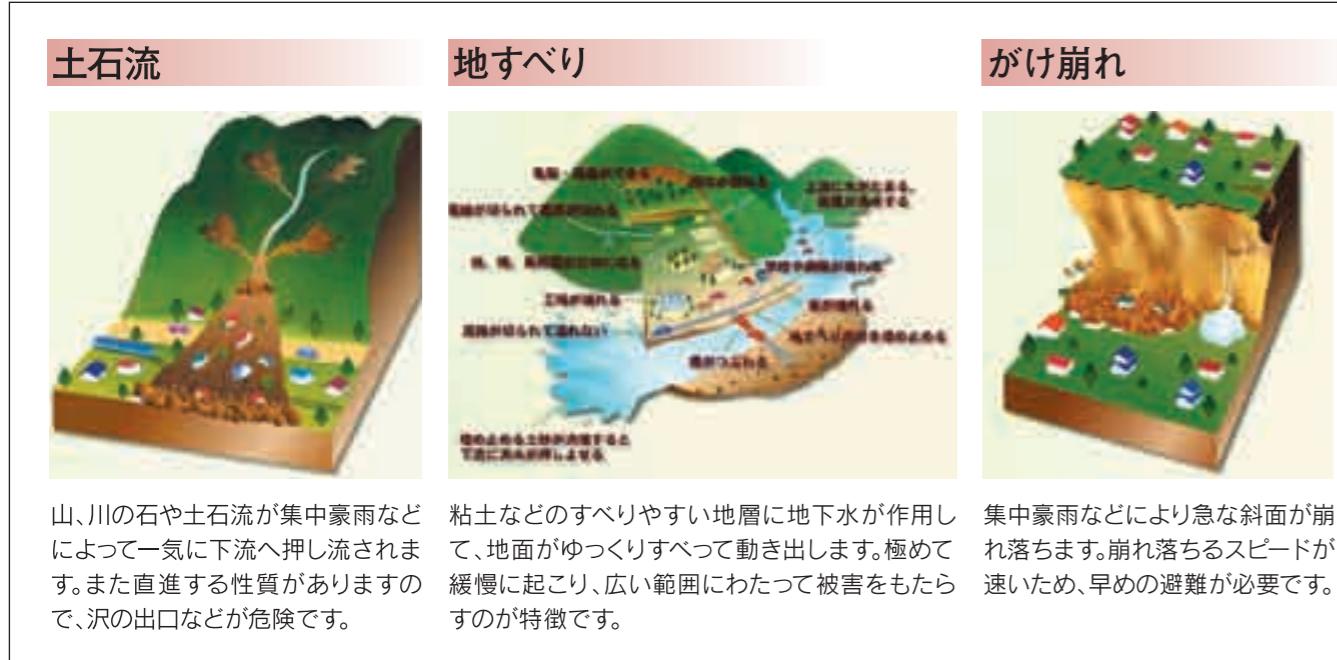
土砂災害による被害

土砂災害は、長雨や集中豪雨がきっかけで発生し、主に①土石流②すべり③がけ崩れの3つがあります。三重県は、土砂災害の発生しやすい地形・地質特性を有しているため、過去に梅雨前線による集中豪雨や台風により県内各地で大きな災害に見舞われました。

県内の土砂災害危険箇所が
ホームページから確認できます。

三重県土砂災害情報提供システム 検索

(http://www1.sabo.pref.mie.jp/mie_gis/start.php)



山、川の石や土石流が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されます。また直進する性質がありますので、沢の出口などが危険です。

粘土などのすべりやすい地層に地下水が作用して、地面がゆっくりすべって動き出します。極めて緩慢に起こり、広い範囲にわたって被害をもたらすのが特徴です。

集中豪雨などにより急な斜面が崩れ落ちます。崩れ落ちるスピードが速いため、早めの避難が必要です。

暴風による被害

暴風は、一般的に風速20メートル以上の風を指しています。風速が15メートル以上になると風に向かって歩けなくなったり転倒したりします。さらに風速25メートル以上になると木が根こそぎ倒れはじめ、30メートル以上になると木造住宅が倒壊はじめます。



高潮による被害

高潮は、台風の接近に伴って発生することが多く、海面が異常に上昇する現象です。特に海岸のゼロメートル地帯などは、高潮による浸水被害を受ける危険性が高く、注意が必要です。



指令 日 地域の状況を知ろう！

住んでいる地域で過去に起こった災害を知る。



三重県の主な風水害

伊勢湾台風

昭和34年9月21日にマリアナ諸島で発生した熱帯低気圧は、22日午前9時に台風15号となり、非常に広い暴風域を伴って26日午後6時過ぎ和歌山県潮岬の西に上陸。その後6時間余りで本州を横断し、全国的に大きな被害をもたらしました。特に伊勢湾周辺地域での被害が大きく、後に「伊勢湾台風」と命名されました。

県内の死者・行方不明者は1,281名にのぼりました。特に、木曽三川のデルタ地帯にある木曽岬、長島では短時間の降雨量の増加と押し寄せた高潮により堤防が決壊し、この地帯だけで800人を超える方が亡くなりました。

この伊勢湾台風をきっかけに国は、体系的な防災体制の構築が必要として、防災対策の基本となる「災害対策基本法」が制定されました。

■被害の概要

死者・行方不明 5,098名(三重県 1,281名)
住家浸水 363,611棟(三重県62,655棟)
住家全壊 40,838棟(三重県 5,386棟)

出典 全 国:平成20年度版 消防白書より
三重県:伊勢湾台風災害誌より

◆伊勢湾台風の気象特性

上陸時中心気圧	929.2hPa
上 陸 時 風 速	45.4m/秒(伊良湖岬)
高 潮	3.55m(名古屋港)
波 高	8-10m(湾外) 2.4m(名古屋港外)

出典:中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会資料より作成



桑名市長島町(提供:輪中の郷)

平成16年台風第21号と秋雨前線に伴う大雨による被害

台風21号とその影響を受けた前線により9月28日から29日にかけ、宮川村を中心とした県中南部地域で豪雨となり時間雨量119mm、連続雨量753mmを記録し、宮川村や紀伊長島町において大規模土石流、崖崩れ、地すべり災害が発生しました。

この土砂災害によって死者6名、行方不明者1名、重傷者2名の人的被害が発生しました。



平成16年豪雨災害(旧宮川村 地内)